

川崎ジュニア文化大賞

私のしょう来の夢

橘小学校 6年生 飯沢 帆乃夏

私のしょう来の夢は伝統工芸の職人になることです。その夢をもったきっかけはミニカワサキにあります。

ミニカワサキは毎年10月に開さいされる子供だけのイベントです。大人口出し禁止というのがミニカワサキの鉄則です。ミニカワサキは、子供だけで作った小さな町で働いたりお買い物をすることができます。

私がミニカワサキで一番楽しいと思うところは自分のお店が出せるところです。私は物作りが好きなので、自分で作ったものを売ることになりました。毛糸のシュシュやフェルトのポーチ、ミサंगा、アイロンビーズなどたくさんの手作り品を売りました。

売り物作りは大変でした。物作りが好きでも売り物となると、自分が使う物ではなくお客さんが使うものなので、よりていねいに作らなくてははいけません。フェルトのポーチは玉結びや玉どめが見えないように作り、ミサंगाは少しの失敗でも糸をほどいて編み直しました。そして、売るとなるとかなりの品物の量が必要なため、毎日品物を作りました。

たくさんの苦労があったので、自分が作ったものが売れたときはとてもうれしかったのを感じています。

私はミニカワサキの体験を通して本物の品を売りたいと思いました。その中でも、私は日本の伝統工芸にみりよくを感じています。

伝統工芸のみりよくは美しいところです。どの伝統工芸品も昔の人が知恵を働かせて作っていたことがよくわかります。伝統工芸品は木や植物などを使っているものが多く、自然が感じられます。

神奈川県にはたくさんの美しい伝統工芸があります。

私は今年の春に箱根寄木細工のコースター作りを体験してきました。寄木細工とは、箱根の大自然から生まれた日本の伝統工芸です。寄木細工は種類の多い木材それぞれが持つ異なった色や木目を活かし、寄せ合わせながら、もようを作ります。私は体験中にどのような並べ方にと美しく見えるかなとワクワクしながら作っていました。きっと、職人さんも一つ一つ想いをこめて、ていねいに作っているんだろうなと思いました。

私の住む川崎市にも伝統工芸があります。川崎の日本民家園にある藍染めです。

藍染めとは、原料であるタデ藍を使って藍色に染める伝統工芸です。輪ゴムやビー玉を使ってもようを作り藍がめという染め液が入ったところに布を入れた後、引き上げて空気にふれさせ酸化させることで美しい藍色になります。

藍染めの特ちょうはたくさんの水を使う事です。水が豊富な川崎では、江戸の頃、

藍染めが盛んに行われていました。しかし、明治時代にヨーロッパから安価な化学染料が入ってきたため藍染めをやる人は減ってしまいました。それでも残してくれたおかげで、私たちも藍染めについて知ることができたのだと思いました。

私は、ミニカワサキのおかげで自分が作ったものを売るうれしさに気づきました。大人になったら伝統工芸品を作って売れるようになりたいです。そして、日本の伝統を守り、昔の人の想いと技術をつむいでいきたいです。